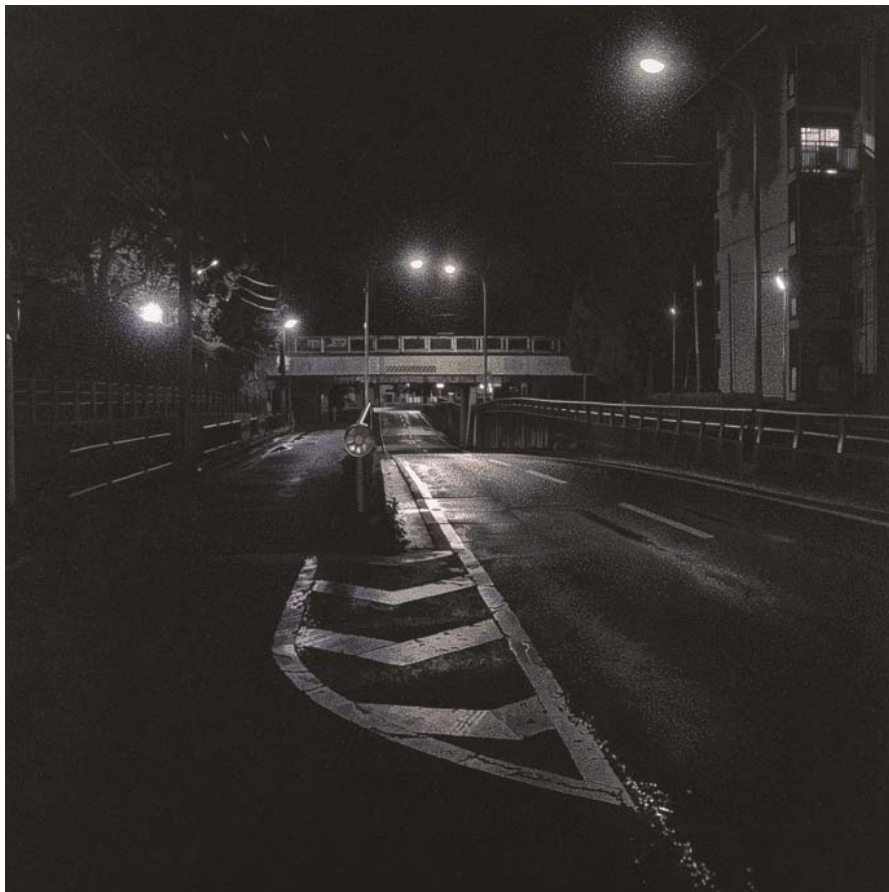


特別展「第9回菅橋彦大賞展」市民賞作品について

1 受賞作品



八木佑介 《2016/05/11 2:00》

2 作家略歴

1991年京都府生まれ。京都造形芸術大学院修了。卒業制作展学長賞、佐川美術館 栗和田榮一賞。修了制作展優秀賞。2011年トリエンナーレ豊橋星野眞吾賞展出品、審査員推奨。2012年公益財団法人佐藤国際文化育英財団第22期奨学生、2013年奨学生美術展出品。同年～京都造形芸術大学日本画研究室選抜展画心展-selection-出品、2015年奨励賞。2014年日本画年鑑30周年記念展出品。2016年琳派400年記念新鋭選抜展出品。その他、個展7回、グループ展多数。京都府在住。

【推薦者：立島 恵(佐藤美術館学芸課長)】

3 作品の気に入った点(一部紹介)

- ・夜の静けさの中に光があり自分がそこにいる…。
- ・自分が絵の中にいる、不思議な感じがする。
- ・点描への明暗。
- ・地味だが何か引き込まれそうで繊細さが気に入った。
- ・近くで見ても遠くで見ても迫力があるから。
- ・何気なく通っている道路が絵になると不思議な共感を覚える。
- ・遠くで眺めると写真のようでありながら近づくと色んな材料を使って細かく描いてあることがわかり感動し、美しいと思った。
- ・遠くからみてハッとしました。
- ・新しい感覚。
- ・暗闇に描かれた外灯の光が幻想的。多くの色を使いながら闇を表現している。
- ・シンプルだが光のグラデーションがきれい。
- ・訴える力の強さ。異色であること。技術の高さ。
- ・斬新でインパクトのある点。
- ・普通の風景なのに明暗、立体感があっておもしろい。
- ・深夜の静けさの表現がとてもよく表れている。
- ・灯りが希望を感じさせる。